

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.344
2020(令和2)年5月12日(火)発行



NHKTV朝ドラ『**エール**』が3月30日にスタート。主人公古関裕而氏の全作曲数は約5千といわれ、県内の校歌作曲は108曲。南相馬市内では原町高校、原町第二小、鹿島中、旧大甕中、旧小高商業高校生徒会の歌、旧原町国民学校など6校の校歌を作曲されています。特に昭和24年作曲の『原町高校校歌』は、作詞が当時原高職員だった多田利男先生で平和と自由をたたえ、曲はその1年前の『栄冠は君に輝く』と同じ行進曲風で軽快で明るく、よく似ていると言われています。

また、NHKB S3の朝7:15から、1986(昭和61)年朝ドラ『はね駒・はねこんま』が再放送。相馬市(中村町)、南相馬市(原ノ町)、仙台市(宮城女大)も舞台で楽しみです。

新型コロナ便乗の改憲に警戒しよう!

「緊急事態宣言」発令 憲法遵守で考えると

●憲法前文「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」が国の使命です。

●憲法25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」の、私たちの生きる権利はしっかり遵守されなければならない、国民の監視が大事ですね。

●安易に、学校の全国一斉休校を要請したが、**憲法第26条**の「教育を受ける権利」に大きく抵触することではないのか。

営業損失の補償は憲法の要請

●憲法29条は「財産権は、これを侵してはならない。③私有財産は、正当な補償の下に、これを公共のために用いることができる」とあり、感染予防という公共のために起きた営業損失を国が補償するのは憲法上当然のことです。

●来年7月に**東京五輪**は開催できるわけがない。早期に中止すべきだ。(平野啓一郎氏)

●安倍首相は宣言の会見で、プロンプターを丸読みされていて、官僚の言葉を読んでいるだけなんです。これはいい加減やめてもらいたい。(青木 理おさむ氏)



コロナ危機を改憲に利用していいのか

■「(感染拡大は)憲法改正の大きな実験台」(伊吹文明元衆院議長) ■「(改憲)議論のきっかけにすべきだ。」(下村博文選対委員長)
■「感染が広がる中で、改憲議論を持ち出すのは適当ではない。もう少し落ち着いてから対応すべきことだ。」(二階俊博自民幹事長)
■「(コロナ禍に対応する緊急事態や自衛隊明記など)憲法改正への挑戦は決してたやすい道ではないが、必ずや皆さんと共に成し遂げていく」と力説。(5月3日、安倍晋三首相)

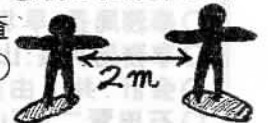
●メディアは今年、憲法の特集でなくコロナ一色です。こんな時にこそ、憲法について考えてほしい。(九州大・南野 森しげる教授)



ちょっと小休止

新語が次々登場 めんどろな専門用語、漢字も難しいですね。

- **コロナウイルス** (王冠のようなウイルス) = COVID-19 (coronavirus disease 2019)
- **ウイルス** (大きさが20~300ナノ(10億分の1)メートルだから、菌のように光学顕微鏡で見ることにはできず、原子顕微鏡で見ることが出来る。そこで野口英世晩年の誤りや悲劇が生まれた。
- **PCR検査** (Polymerase Chain Reaction ポリメラーゼ連鎖反応) 検査
- **クラスター** (集団感染) ■ **パンデミック** (感染症の制御不能の世界的流行)
- **ロックダウン** (都市封鎖) ■ **ソーシャルディスタンス** (社会的距離の確保)
- **オーバーシュート** (感染症の爆発的流行) ■ **フィジカルディスタンス** (身体的距離の確保)
- **コロナ禍** 「コロナか」 ■ **罹患** 「りかん」 ■ **自粛** 「じしゅく」(粛の書き順が難しい!)



会員さんの活動 3.11被災した若者の苦悩を全国に伝え続ける 〈相馬クロニクル（相馬高校放送局OBの会）〉 大林宣彦監督も絶賛

相馬高校放送局（部）は大震災の直後、被災した高校生の不安や苦悩をテレビ番組や演劇で訴え、NHK高校放送コンテストで全国優勝。それが話題となり全国各地から招かれて、公演や上映会を行ってきました。

9年後の現在、放送局（部）員は進学し社会人になりますが、当時の放送局顧問渡部義弘先生（本会会員）指導の「相馬クロニクル」というグループで、ここ1年だけでも全国20以上の会場で上映会を開催しています。

震災で小中高校生や若者は大きな犠牲を強いられますが、率直な若者の声を継続して伝えていて、大変貴重な注目される活動です。

映像の魔術師、「映画人九条の会」でも活動されていた大林宣彦映画監督が4月10日82歳で死去されました。

震災直後の「高校生映像フェスティバル」で相馬高校のビデオ作品『ちゃんと伝える』は特別賞を受賞しますが、作品について審査委員長の大林監督は、「車窓から撮影した津波跡の映像は、揺れた瞬間に高校生の痛みや悲しみが、また津波で流された自宅跡を歩く二人の女子高校生の姿にも希望を感じ、チャーミングな作品です」と高く評価されていました。
〈2014年12月21日、尚美学園大学にて〉



会員さんからの便利・メール

ETV特集「鈴木義男と憲法」を見て

○5月2日真夜中のNHKテレビの特集で、白河市出身の鈴木義男さんのことを拝見しました。素晴らしい国会議員さんで、生存権など民主主義の土台の憲法づくりに頑張った方ですが以前の「会報」で知っていたので、よく分かりました。（東京都TYさん）

〈事務局より〉

新型コロナウイルス、お互いに感染しないよう知恵を出し元気に過ごしましょう。

6月開催予定の「総会」も、コロナ感染防止のため中止にしました。ご理解ください。

「コロナ禍」を、トランプも習やマクロンなどの世界のリーダー、また安倍首相も「戦争」と呼んでいます。そうなら莫大な軍事費をコロナ対策や撲滅に回すべきでしょう。

長く「はらまち九条の会」のホームページは開けませんでした。この程、まだ一部だけですがご覧になれるようになりました。創刊以来の全会報が見ることができる

無念な中村哲先生の死

神奈川県藤沢市 川上京子さん

前略 いつも会報「九条はらまち」をお送り頂き、有難く拝読致しております。

中村哲先生のこと、ベシヤール会の一会員として、これほどの無念を感じたのははじめてです。

継続することの大切さを示されてのご活動を指針として、会員であることを続けて行こうと思っております。封中の切手は感謝の気持ちです。ご活用頂ければ幸いです。

はらまち九条の会様 十二月吉日

（川上さんは震災直後の「除染署名」の際に本会に入会され、度々のご支援をいただき事務局一同、感謝申し上げます）

よう、さらに事務局で頑張ります。また今回の会報はコロナの影響で遅れました。お許し下さい。

事務局員の山崎が編集の冊子『大震災の報告メモ』（A4判・127ページ）と『被災地の旅ガイド』（同・41ページ）が、今年の第2回「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」の優秀賞に選ばれました。個人の活動のことですが、報告いたします。

「はらまち九条の会」事務局 〈市外局番はTEL0244〉

○会長：平田慶肇 ひらたけいいち TEL24-1211・FAX24-4825

○事務局長：早坂吉彦 TEL090-2975-2508 ○番場恵子 TEL22-0715

○事務局次長：山崎健一（福島市）TEL090-7527-5453 Eメール：yamazakiken1@gmail.com

○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892

○石田賢二（郡山市）TEL080-5556-4037 ○志賀勝明（相馬市）TEL090-9530-5524

○大浦祥見 TEL24-0704 ○若松麟二 TEL23-5732 ○田中徳雲（小高区）TEL090-2796-4066

